

躯体蓄熱放射空調など紹介

日栄商事が環境設備セミナー

金 沢

日栄商事（本社・金沢市、中村哲郎取締役社長）は26日、第14回環境設備勉強会（共催・東芝キヤリア、パナソニック産機システムズ）を金沢市ものづくり会館で開き、参加者はリニール投入された躯体蓄熱放射空調などの先進的な環境設備

について理解を深めた。勉強会には同社取引関係者約40人が参加。冒頭、中村社長が今回のセミナーのプログラム内容を紹介した上で「3年ぶりに皆さまと直接会うことができて大変嬉しい。本日の勉強会が実り多きものなることを願っている」とあいさつした。



約40人が参加した第14回環境設備勉強会＝26日

続いて講義に移り、金沢工業大学建築学部建築学科の垂水弘夫教授が「ZEBの検証・躯体蓄熱放射空調について」と題して基調講演。清水建設北陸支店社屋のリニールにおける環境面での新技術の導入について、省・創エネルギーによる「ZEB」（ネット

・ゼロ・エネルギー・ビル）の実現に向けた、クリーン水素ビルシステム（太陽光発電による水素利用蓄システム）や、躯体蓄熱放射・床吹出し空調システムにおける執務時間帯の温熱環境データと執務者の温冷感アンケート結果との比較により、どのような行動性体温調節が選択されるのかや、快適性を確保しつつ、空調用のエネルギー消費を最も少なくできるスケール

（PMV）設定値を見出す検証とその結果などについて解説した。

続いて日栄商事取締役執行役員の金子富洋空調部部長による、21年度に採択された二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金の2件（アパホテル

の補助申請や空調更新計画の概要のほか、ランニングコストやCO₂削減効果の試算内容、さらに実績データによる経過報告も行われ、2件ともCO₂削減率が40%以上を達成したと説明した。

この後、東芝キヤリアからは省エネ性や先進性が高い「寒冷地向けビル用マルチシステムスーパーマルチu暖太郎」、パナソニック産機システムズからは、環境に配慮した「吸水式冷温水機」など新製品の特長等の説明が行われた。